

令和4年度版

生物資源科学部

「免許・資格一覧表」

CONTENTS

1 各学科で取得できる免許・資格一覧表

① 資格の分類	1
② 教員免許	1
③ 国家資格・公的資格	1
④ 民間資格	3

2 資格取得に関する科目対応表

① 樹木医補【生命農学科・森林資源科学科】	5
② 自然再生土補【生命農学科・生命化学科・森林資源科学科・国際地域開発学科・くらしの生物学科】	6
③ 環境再生医初級【生物環境工学科】	11
④ 食品衛生管理者・食品衛生監視員・食品衛生責任者【動物資源科学科】	12
⑤ 家畜人工授精師【獣医学科・動物資源科学科】	13

3 受験資格取得に関する科目対応表

① 二級建築士・木造建築士【森林資源科学科】	14
② 一級建築士, 二級建築士・木造建築士【生物環境工学科】	15

各免許・資格の最新の受験資格、申込期間、試験日、試験内容等の詳細については、各主催団体に確認してください。

1 各学科で取得できる免許・資格一覧表

① 資格の分類

- A 所定の科目を修得し、卒業時に取得することができる資格（取得に条件のあるもの、卒業後に申請するものを含む）
- B 所定の科目を修得し、在学時または卒業時に受験資格が得られる資格
- C 所定の科目を修得し、卒業後にその資格に関連する職務に就いた場合に、申請のうえ取得可能な資格（任用資格）
- D 所定の科目を修得し、卒業後にその資格に関連する職務に一定期間就いた場合に、申請のうえ受験資格が得られる資格
- E 所定の修業年限以上在籍した場合に受験資格が得られる資格
- F 公務員等に採用され、実際に業務に就いたときに初めて名乗ることのできる資格（任用資格）
- G 一部試験が免除になるもの
- H 所定の科目を修得し、受験あるいは受講することにより得られる資格

② 教員免許

教科	種別	資格の分類	生命農学科	生命化学科	獣医学科	動物資源科学科	食品ビジネス学科	森林資源科学科	海洋生物資源科学科	生物環境工学科	食品生命学科	国際地域開発学科	応用生物科学科	くらしの生物学科	活躍できるフィールド	主催団体等
社会	中学校1種	A					○					○			中学校・高等学校 都道府県教育委員会	
公民	高等学校1種						○					○				
理科	中学校1種 高等学校1種		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○		○ ○			
農業	高等学校1種		○ ○		○ ○	○ ○	○ ○					○				
水産	高等学校1種								○							

※【教員免許】詳細は「学部要覧」を参照

③ 国家資格・公的資格

名称	資格の分類	生命農学科	生命化学科	獣医学科	動物資源科学科	食品ビジネス学科	森林資源科学科	海洋生物資源科学科	生物環境工学科	食品生命学科	国際地域開発学科	応用生物科学科	くらしの生物学科	活躍できるフィールド	主催団体等
学芸員 ※1	C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	博物館・美術館・水族館・動物園・大学等	文部科学省
修習技術者(JABEE) ※2	A							○	○					土建・上下水道・環境調査 関連会社等	一般社団法人日本技術者教育認定機構
食品衛生管理者 ※3 ※4	C		○	○	○			○		○		○		食品・添加物の製造又は加工施設	厚生労働省
食品衛生監視員 ※3 ※4	F		○	○	○			○		○		○		厚生労働省検疫所・地方厚生局・地方自治体保健所等	厚生労働省及び都道府県
食品衛生責任者 ※4	A		○	○	○			○		○		○		飲食店等	都道府県
家畜人工授精師	A			○ ※5	○ ※6									牧場・家畜保健衛生所・市町村役・食品メーカー・製薬会社・飼料メーカー等	都道府県
飼料製造管理者 ※7	C		○	○	○			○						家畜・農業関連会社等	独立行政法人農林水産消費安全技術センター(FAMIC)

※1【学芸員】詳細は学部要覧を参照

※2【修習技術者】海洋生物資源科学科「海洋生物資源応用コース」及び生物環境工学科「地域環境工学コース」修了者は「修習技術者」となり、「技術士」の一次試験が免除になります。

※3【食品衛生管理者、食品衛生監視員】「食品衛生コース」への登録が必要です。(食品生命学科は必要ありません)

※4【食品衛生管理者、食品衛生監視員、食品衛生責任者】対象科目は学部要覧を確認してください。動物資源科学科は「2 資格取得に関する科目対応表」④(P.12)を確認してください。

※5【家畜人工授精師】獣医師の資格を取得することで、家畜人工授精師と同じ業務を行うことができます。

※6【家畜人工授精師】資格取得の対象家畜は牛及び豚です。

※7【飼料製造管理者】抗菌性物質等を取り扱う飼料製造業者等は、飼料製造管理者を設置することが義務付けられています。生命化学科、動物資源科学科及び海洋生物資源科学科の卒業生はその修得科目によって飼料製造管理者資格が認められますので、自分が同資格取得可能か否かは、「独立行政法人農林水産消費安全技術センター」に成績証明書を提示し、確認してください。

③ 国家資格・公的資格(つづき)

名称	資格の分類	生命農学科	生命化学科	獣医学科	動物資源科学学科	食品ビジネス学科	森林資源科学学科	海洋生物資源科学学科	生物環境工学科	食品生命学科	国際地域開発学科	応用生物科学科	くらしの生物科学科	活躍できるフィールド	主催団体等
獣医師	B			○										家畜診療所・病院・役所・製薬会社・食品会社・地方自治体・農協・検疫所等	農林水産省
と畜検査員 ※要:獣医師免許	F			○										食肉検査所	都道府県
狂犬病予防員 ※要:獣医師免許	F			○										各都道府県の役所	都道府県
種畜検査委員 ※要:獣医師免許	F			○										各都道府県の役所	厚生労働省及び都道府県
薬事監視員	C			○										公的機関の薬務課・保健所等	厚生労働省及び都道府県
毒物劇物取扱責任者	A		○											化粧品、農薬、塗料、染料等の製造業・販売業・輸入業	都道府県
甲種危険物取扱者	B		○				○			○		○		化学系工場・実験・研究施設等	各地の消防署または(一財)消防試験研究センター各支部
化学分析技能士(2級)	B		○					△ ※8		○				医薬品・化粧品メーカー・プラント(化学設備)メーカー等	都道府県
園芸装飾技能士(2級) ※9	B	○											○	生花店・造園会社・園芸関係のショップ事業所	都道府県
造園施工管理技士	D						○		○					造園業・建設業等	(一財)全国建設研修センター造園試験課
造園技能士(2級) ※10	B	○					○						○	造園業・ホームセンター等	都道府県
測量士補	A						○		○					測量士事務所・建築業界等	国土交通省 国土地理院
1級建築士	B								○					設計事務所・土木・建設会社等	(公財)建築技術教育普及センター
2級建築士・木造建築士	B						○		○					設計事務所・土木・建設会社等	(公財)建築技術教育普及センター
林業架線作業主任者	C						○							林業・建設会社等	公益財団法人安全衛生技術試験協会
林業普及指導員	E						○							各都道府県の役所	農林水産省
土木施工管理技士(1級・2級)	D								○					建設業等	(一財)全国建設研修センター土木試験課
管工事施工管理技士(1級・2級)	D									○				配管・設備・ガス・下水道業等	(一財)全国建設研修センター管工事試験課
建築施工管理技士(1級・2級)	D									○				土木・建設会社等	(一財)建設業振興基金
環境衛生監視員	F	○	○	○	○			○		○		○		厚生労働省・都道府県	厚生労働省及び都道府県
家庭用品衛生監視員	F		○	○	○	○		○		○		○		厚生労働省・都道府県	厚生労働省及び都道府県
環境衛生指導員 ※11	F	○	○	○			○	○		○		○	○	都道府県・市区町村	都道府県及び市区町村
小型船舶操縦士(1級・2級) ※12	H							○						水族館等	国土交通省

※8 【化学分析技能士(2級)】 在学時の修得科目により、短縮の可否が変わります。詳細は主催団体に確認してください。

※9 【園芸装飾技能士(2級)】 詳細は各自治体に確認してください。

※10 【造園技能士(2級)】 詳細は各自治体に確認してください。

※11 【環境衛生指導員】 各自治体により取扱いが異なります。詳細は各自治体に確認してください。

※12 【小型船舶操縦士(1級・2級)】 小型船舶操縦法実習を受講し、国家試験(学科・実技)に合格することが必要です。

④ 民間資格

名称	資格の分類	生命農学科	生命化学科	獣医学科	動物資源科学学科	食品ビジネス学科	森林資源科学学科	海洋生物資源科学学科	生物環境工学科	食品生命学科	国際地域開発学科	応用生物科学科	くらしの生物学科	活躍できるフィールド	主催団体等
森林情報士(2級)	A						○							林業、経営、建設コンサルタント等	一般社団法人日本森林技術協会
樹木医補	A	○					○							造園業・林業・建築・農業園・果実園等	一般財団法人日本緑化センター
自然再生土補 ※1	A	○	○				○			○			○	自然再生に係る事業の調査、計画、設計、施工管理を行う職場	一般財団法人日本緑化センター
日本農業技術検定 ※2	G	○								○				農業・農業法人	全国農業会議所
フードコーディネーター(3級)	A					○								飲食店・食品関連会社・料理教室等	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会
フードスペシャリスト・専門フードスペシャリスト ※3	B					○								食品産業	公益社団法人日本フードスペシャリスト協会
食の6次産業化プロデューサー(レベル1・2) ※4	A					○								生産業・加工業・流通販売業・サービス業	一般社団法人食農共創プロデューサーズ
ビオトープ管理士(2級) ※5	B	○											○	建設業、環境配慮型住宅メーカー、造園業、製造業、材料メーカー等	公益財団法人日本生態系協会 ビオトープ管理士係
登録ランドスケープアーキテクト(RLA) ※6	D	○											○	自然環境、公園レクリエーション、景観、造園等の調査、計画・デザイン・施工・管理を行う職場	一般社団法人ランドスケープコンサルタント協会
環境再生医(初級)	A								○					農業・林業・酪農・漁業等	認定NPO法人自然環境復元協会
コンクリート技士・主任技士	D								○					建設業等	公益社団法人日本コンクリート工学会
コンクリート診断士	D								○					建設業・建設コンサルタント業等	公益社団法人日本コンクリート工学会
バイオ技術者認定試験	E	(上級) 全ての学科の3年次修了見込みの者、卒業者または卒業見込みの者。 (中級) 全ての学科の2学年修了者および2学年修了見込みの者または卒業者。												行政機関・省庁・市町村役所・製薬会社・食品・化粧品	NPO法人日本バイオ技術教育学会
酪農教育ファームファシリテーター※7	C				○									牧場	一般社団法人中央酪農会議
全国乗馬俱楽部振興協会技能認定(4・5級) ※8	H				○									乗馬クラブ等	公益社団法人全国乗馬俱楽部振興協会
社会調査士	A					○								社会調査全般・民間調査会社・シンクタンク等	一般社団法人社会調査協会
PCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント) ※9	H										○			国際協力事業団(JICA)、開発コンサルタント等	一般財団法人 国際開発機構(FASID) アイ・シー・ネット株式会社
動物愛護社会化検定(専門級試験)	H												○	動物愛護推進員、ペット関連ビジネス全般	特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会

※1【自然再生土補】自然再生土補資格認定に必要な認定科目数、単位数を修得した場合は在学中に申請することができます。

※2【日本農業技術検定】生命農学科の「生命農学実習Ⅱ」及び国際地域開発学科の「農業技術実習」修得者は、2級実技試験が免除されます。

※3【フードスペシャリスト・専門フードスペシャリスト】3年次より受験資格があります。

※4【食の6次産業化プロデューサー】「レベル2」は、所定科目的単位修得後、レベル判定審査に合格すると認定されます。

※5【ビオトープ管理士(2級)】所定の科目については、主催団体のウェブサイトを参照してください。また、植物資源科学科の卒業生に対する試験科目一部免除措置は、卒業後5年まで有効であり、対象科目の一覧は植物資源科学科のものが用いられます。

※6【登録ランドスケープアーキテクト】指定分野に対応した科目を3分野・40単位以上修得し、卒業後一定の年数以上のランドスケープアーキテクチュア関連の業務経験が必要です。

※7【酪農教育ファームファシリテーター】「動物資源科学インターンシップ」を受講し、酪農教育ファームのプログラムを2年間以上経験し、中央酪農会議が主催する認証研修会を受講すること。研修会受講には、卒業後ファシリテーターとして活躍する見込みがあることが条件となります。

※8【全国乗馬俱楽部振興協会技能認定4・5級】「動物資源科学インターンシップ」の授業を受講し、指定の乗馬クラブにおいて所定の回数の実習を行い、試験に合格すること。

※9【PCM】「参加型評価手法(PCM)」の授業を受講し、研修受講後、資格試験に合格すること。

2 資格取得に関する科目対応表

①樹木医補

【生命農学科、森林資源科学科】

「樹木医補」の資格は、**生命農学科**及び**森林資源科学科**の学生が取得可能な資格です。

「樹木医補」資格取得には、次の要件を満たすことが必要です。

→ 下表の「分野別の科目対応表」のうち「講義科目分野」から6分野・14 単位以上を履修、修得し、さらに「実験・実習科目分野」から4分野・4科目以上を履修、修得して生命農学科または森林資源科学科を卒業した者であること。

〈備考〉

講義科目については、他学科開講科目の履修・修得が認められます（所属学科の指定科目にしばられず、他方の学科の科目を履修・修得することにより、資格取得に必要な単位数に充当できます）。ただし、実験・実習・演習科目については他学科履修は認められません。

【例：生命農学科所属の学生が森林資源科学科の講義科目を履修・修得し、資格取得に必要な単位数に充当することが認められる】

学科・科目分野 分野別	生命農学科		森林資源科学科	
	講義科目	実験・実習科目	講義科目	実験・実習科目
樹木の分類	植物形態・分類学 (2)		樹木学 (2)	冬季演習林実習 (1)
樹木の生態・生理	植物生態学 (2) 景観生態学 (2) 果樹園芸学 (2)	生命農学実験 II (2)	森林生態学 (2) 造林学 (2)	森林生態学実習 (1)
立地・土壤	土壤科学 (2) 緑地工学 (2)		森林土壤科学 (2) 山地保全学 (2)	造林学実習 (1) 森林水文気象学演習 (2)
植物病理	植物病理学 (2) 植物病原微生物学 (2) 昆虫ゲノム医科学 (2)		樹病学 (2) 森林微生物学 (2)	森林生物多様性実験 (1) 森林生物多様性実習 (1)
昆虫・動物	応用昆虫学 (2)		森林昆虫学 (2) 森林動物学 (2)	森林生物多様性実験 (1) 森林生物多様性実習 (1)
樹木医学			樹病学 (2)	
農薬科学	農薬科学 (2) 植物医科学 (2)		木材防腐防虫学 (2)	
造園学	緑地環境計画学 (2) 造園緑地学 (2)	ランドスケープ演習 (2)	風致造園学 (2)	風致造園学実習 (1)
樹木医補 総合	都市緑化技術論 (2)	生命農学実験 I (2)	森林資源科学概論 I (2) 森林生物の多様性と進化 (2) 環境綠化工学 (2)	森林資源科学実習 (2)

注:1. 表中の()内数字は単位数である。

2. 卒業研究が樹木医学に係る研究である場合、他の履修科目と重複しないいずれか1分野の実験・実習科目として認定できる。ただし、その内容が当該分野に該当する樹木医学に係る研究であることを証明する指導教官等の証明書が必要である。

② 自然再生土補

【生命農学科、生命化学科、森林資源科学科、国際地域開発学科、くらしの生物学科】

「自然再生土補」は、生命農学科、生命化学科、森林資源科学科、国際地域開発学科及びくらしの生物学科の学生が取得可能な資格です。必要な認定科目数、単位数を修得した場合は在学中に申請することができます。

「自然再生土補」資格取得には、以下のコースAもしくはBの要件を満たすこと。ただし、講義科目については、生命農学科、生命化学科、森林資源科学科、国際地域開発学科及びくらしの生物学科が定める自然再生土補資格取得に関する科目の履修・修得により、資格取得に必要な単位数に充当できる。実験・実習・演習科目については他学科履修は認められない。

- コースA：「実験・実習（演習）分野①～⑥」より「3科目以上・6単位以上」の履修・修得、「講義分野①～⑪」より「2科目以上・4単位以上」の履修・修得、合計「実験・実習（演習）分野」及び「講義分野」より「5科目以上・10単位以上」の履修・修得があること。
- コースB：「実験・実習（演習）分野」、「講義分野」に関係なく「6科目以上・12単位以上」の履修・修得があること。

〈備考〉

講義科目については、他学科開講科目の履修・修得が認められます（所属学科の指定科目にしばられず、他方の学科の科目を履修・修得することにより、資格取得に必要な単位数に充当できます）。ただし、実験・実習・演習科目については他学科履修は認められません。

【例：生命農学科所属の学生が森林資源科学科の講義科目を履修・修得し、資格取得に必要な単位数に充当することが認められる】

（1）生命農学科

実験・実習（演習）分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・生物資源科学 フィールド実習 (1)	①自然再生・自然環境概論	・エコロジカル ・デザイン論 (2) ・景観生態学 (2)
②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	・ランドスケープ演習(2)	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	・造園緑地学 (2) ・緑地環境計画学 (2)
③地域環境資源調査に係る実習・演習		③自然再生・自然環境保全に係る施工計画・施工学	・緑地工学 (2)
④自然環境保全活動に係る実習・演習		④自然再生・自然環境保全に係る維持管理計画・管理学	・都市緑化技術論 (2)
⑤生態学実習・演習		⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	・植物形態・分類学 (2) ・芝草学 (2)
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・園芸デザイン演習 (2)	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	・応用昆虫学 (2) ・害虫制御論 (2) ・昆虫ゲノム医科学 (2)
		⑦環境リスクマネジメント学	
		⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	
		⑩地域環境学・地域生態論	・農と緑の まちづくり論 (2)
		⑪環境関連法規	・自然保護政策論 (2)

注：表中の（ ）内数字は単位数である。また、同一科目についてはいずれかの分野で1回のみ、必要単位数に充当できる。

(2) 生命化学科

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・土壤化学実験 (2) ・植物栄養生理学実験(2)	①自然再生・自然環境概論	・土壤科学 (2) ・環境微生物学 (2) ・環境化学 (2) ・肥料動態学 (2)
②動・植物同定調査に係る実習・演習(森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)		②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	
③地域環境資源調査に係る実習・演習		③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習	・生物資源科学 フィールド実習 (1)	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・土壤生産化学 (2)
⑤生態学実習・演習	・微生物学実験 (2)	⑤植物(草本類、木本類、水生植物等)分類・生態・生理学	・植物生理学 (2) ・植物栄養学 (2) ・植物細胞科学 (2) ・作物学 (2)
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・サイエンスプレゼンテーション (2)	⑥動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学	・動物生理学 (2) ・動物細胞科学 (2)
		⑦環境リスクマネジメント学	
		⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	
		⑩地域環境学・地域生態論	
		⑪環境関連法規	

注: 表中の()内数字は単位数である。また、同一科目についてはいずれかの分野で1回のみ、必要単位数に充当できる。

(3) 森林資源科学科

実験・実習（演習）分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・森林水文気象学演習(2) ・山地保全学演習 (2)	①自然再生・自然環境概論	・森林資源科学概論 I (2) ・森林土壤科学 (2)
②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	・森林生物多様性実習(1) ・森林生物多様性実験(1)	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	・山地保全学 (2) ・森林G I S (2) ・森林水文気象学 (2)
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・森林計測学実習 (1)	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	・環境緑化工学 (2) ・造林学 (2)
④自然環境保全活動に係る実習・演習	・造林学実習 (1) ・風致造園学実習 (1)	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・森林計画学 (2) ・風致造園学 (2)
⑤生態学実習・演習	・森林生態学実習 (1)	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	・樹木学 (2) ・森林生態学 (2) ・森林生物の多様性と進化(2) ・森林微生物学 (2)
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習・演習	・特別演習 I (2) ・特別演習 II (2)	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	・森林動物学 (2) ・森林昆虫学 (2)
		⑦環境リスクマネジメント学	
		⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	・森林環境教育論 (2)
		⑩地域環境学・地域生態論	・森林政策学 (2)
		⑪環境関連法規	

注：表中の（ ）内数字は単位数である。また、同一科目についてはいずれかの分野で1回のみ、必要単位数に充当できる。

(4) 國際地域開発学科

実験・実習（演習）分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境農学実験（1）	①自然再生・自然環境概論	・環境生態学（2） ・地球環境を考える（教養教育科目（2））
②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	・資源作物学実験（1） ・農業技術実習（2）	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	・社会調査法（2）
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・国際地域開発演習（環境保全工学ゼミ） 3年次（2） 4年次（2）	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	・地域環境保全工学（2） ・環境情報利用学（2）
④自然環境保全活動に係る実習・演習	・環境保全工学 実験・実習（1）	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・水と土の保全学（2）
⑤生態学実習・演習	・国際地域開発演習（熱帯資源作物ゼミ） 3年次（2） 4年次（2）	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	・作物と食の文化（2）
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・開発課題研究（2） ・経済・環境情報処理実習（2）	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	・基礎生物学（教養教育科目（2））
		⑦環境リスクマネジメント学	
		⑧環境経済学	・環境経済学（2）
		⑨環境社会学	
		⑩地域環境学・地域生態論	・環境農学（2） ・農業生態学（2）
		⑪環境関連法規	

注：表中の（ ）内数字は単位数である。また、同一科目についてはいずれかの分野で1回のみ、必要単位数に充当できる。

(5) くらしの生物学科

実験・実習（演習）分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・生物資源科学 フィールド実習 (1)	①自然再生・自然環境概論	・緑地環境学 (2) ・保全生物学 (2) ・環境修復生物学 (2)
②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	・くらしの科学実習 (1)	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	・くらしの環境 デザイン論 (2) ・まちづくり学 (2)
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・環境緑化実験 ・実習 (1)	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習	・ボランティア活動 (1)	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・ビオトープ管理学 (2) ・公園緑地利用学 (2)
⑤生態学実習・演習		⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	・植物生理生態学 (2) ・植物組織細胞 培養学 (2)
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・ゼミナール (2) ・〔双方向授業〕 生き物 (2)	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等） 分類・生態・生理学	・動物科学 (2) ・応用魚類飼育学 (2) ・応用昆虫飼育学 (2) ・微生物学 (2)
		⑦環境リスクマネジメント学	
		⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	・生き物倫理 (2)
		⑩地域環境学・地域生態論	・里地里山学 (2)
		⑪環境関連法規	

注：表中の（ ）内数字は単位数である。また、同一科目についてはいずれかの分野で1回のみ、必要単位数に充当できる。

③ 環境再生医初級

【生物環境工学科】

「環境再生医初級」は、**生物環境工学科**の学生が取得可能な資格です。

「環境再生医初級」資格取得には、次の要件を満たすことが必要です。

初級認定 講習科目 (分野)	科 目 概 要 (原則的なコンテンツ)	対 応 科 目	単位数
1. 地球環境問題 自然環境復元概論	①地球環境の危機と生物多様性 ②生物の分類と生態系 ③自然についての基本理念と思想の変遷 ④国際的取り組みとその経緯等	生物や自然に関する基礎知識を持ち、生物多様性の危機等、地球環境危機の根源について、国際的な視野の下で十分に理解していること。	基礎生態学 環境化学 社会基盤施設工学概論 地域環境保全学概論
2. 自然環境の再生	①自然環境再生の動向 ②山林・農地の自然再生 ③河川・水辺の自然再生 ④都市における自然環境再生等	農山村や河川、都市等における自然環境の保全・再生の動向及び技術について、基礎的な知識を持つこと。	農地環境整備学 建築計画学 社会基盤施設工学各論 地域環境保全学各論 環境建築学
3. 物質資源の循環・再生	①循環型共生社会の構築 ②産業・経済および社会活動の方向－エコロジカル・リテラシー、エコマテリアル、ゼロエミッション ③循環型社会と暮らし／海外例等	資源や物質に関する循環型社会の構築について、課題に対する理解と基礎的な知識を持つこと。	環境エネルギー工学 地域環境水文学 バイオマスエネルギー工学 生物地域環境計画学
4. 環境教育・市民活動	①環境学習活動と生きがいの再構築 ②グリーンツーリズム ③インタークリティーションと環境教育リーダー育成等	学校教育や生涯学習における環境学習の動向と課題について、基礎的な理解をしていること。	動物生態・共生学 エコロジカルデザイン演習 農村整備計画学
5. 環境行政と関係法令	①環境基本法と生物多様性国家戦略 ②自然再生推進法と自然関連法 ③循環型社会形成推進基本法とリサイクル関連法令 ④環境教育推進法等	環境の保全・再生を進めるに当たって必要な条約と環境関連法の内容について、基礎的な知識を持つこと。	公害防止管理論
合 計			33

〈注釈・付記事項〉

上記の対応科目33単位中、1分野は4単位以上、2分野は4単位以上、3分野は4単位以上、4分野は3単位以上、5分野は2単位、合計17単位以上を取得し、3年次あるいは4年次の後期末の特別講義を受講し講義内での試験に合格した学生が、環境再生医初級として認定される。

④ 食品衛生管理者・食品衛生監視員・食品衛生責任者

【生命化学科, 獣医学科, 動物資源科学科, 海洋生物資源科学科, 食品生命学科, 応用生物科学科】

食品衛生管理者・食品衛生監視員・食品衛生責任者を取得できる学科は1ページ③を参照し、資格取得に必要な科目は学部要覧で確認してください。なお、動物資源科学科は以下の説明も確認してください。

動物資源科学科

食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を動物資源科学科で取得するためには、「食品衛生コース」に登録し、下記21科目の単位取得が必要となります。
なお、必要単位すべてを動物資源科学科在籍時に修得しなければなりません。
また、食品衛生責任者の資格は、卒業時に得られる資格ですが、届出先の機関により判断が異なる可能性があるので、下記の科目を取得することをおすすめします。

必修科目

学 年	科 目 名
1	動物資源科学概論 動物遺伝学 化学概論 動物形態学 動物生理学 動物生殖学 野生動物学 基礎生化学
2	生物統計学 生殖生理学 飼料資源学 微生物学 ミルク科学 動物資源科学実験 動物育種学 動物衛生学 肉と卵の科学 微生物学実習 栄養生理学 動物応用栄養学
3	食品衛生学

⑤ 家畜人工授精師

【獣医学科、動物資源科学科】

「家畜人工授精師」は、獣医学科及び動物資源科学科で取得可能な資格です。なお、動物資源科学科の場合は下記の科目の修得及び講習会の受講が必要です。

必修科目

学 年	科 目 名
1	動物資源科学概論 動物遺伝学 動物生殖学 牧場実習
2	生殖生理学 飼料資源学 動物育種学 動物衛生学 栄養生理学 動物応用栄養学
3	産乳科学 動物疾病学 資源動物論 産肉科学 動物育種学実習 動物生殖学実験

3 受験資格取得に関する科目対応表

① 二級建築士・木造建築士

【森林資源科学科】

「二級建築士・木造建築士」の受験資格は、**森林資源科学科**の学生が取得可能です。

「二級建築士・木造建築士」の受験資格の取得・免許登録には、次の要件を満たすことが必要です。

下表の「分野別の科目対応表」の A~F の分野ごとに必要単位数以上の単位をそれぞれ履修・修得しなければなりません。

卒業後すぐに試験を受験することは可能ですが、卒業後から試験合格を経て免許登録までには実務経験が必要です。必要な実務経験年数は、下記科目の総取得単位数により、以下のようになります。

下記科目の修得単位数の合計が 20 単位以上(A~E で 20 単位以上)であれば、実務経験 2 年で免許登録できます。

下記科目の修得単位数の合計が 30 単位以上(A~E で 20 単位以上)であれば、実務経験 1 年で免許登録できます。

下記科目の修得単位数の合計が 40 単位以上(A~E で 20 単位以上)であれば、実務経験 0 年で免許登録できます。

分 野 别	必要単位数	指 定 科 目	単位数
A 建築設計製図	3	建築設計製図 I	2
		建築設計製図 II	2
		CAD 製図	1
B 建築計画、建築環境工学又は建築設備	2	建築計画論	2
		木造住宅論	2
		建築史・保存活用論	2
		▲環境建築学	2
		▲都市計画	2
		▲建築環境工学	2
C 構造力学、建築一般構造又は建築材料	3	森林基礎力学	2
		木材加工学	2
		木造建築構法	2
		木材物理学	2
		建設材料学	2
		木材計測学実験	1
		木質材料学	2
D 建築生産	1	▲建築材料	2
		建築施工論	2
E 建築法規	1	建築法規	2
F その他	適宜	森林測量学	2
		森林測量学実習	1
		風致造園学	2
		木材防腐防虫学	2
		▲図学	2
		▲農村整備計画学	2
		▲生物地域環境計画学	2
		▲フィールドワーク論	2

▲は他学科（すべて生物環境工学科）の開講科目を示します。

他学科開講の科目を併せて必要単位数を満たす必要があるので、履修計画に注意してください。

指定科目は、変更される場合もあります。変更があった場合には、直ちにお伝えします。

② 一級建築士、二級建築士・木造建築士

【生物環境工学科】

「一級建築士、二級建築士・木造建築士」の受験資格は、**生物環境工学科**の学生が取得可能です。

「一級建築士、二級建築士・木造建築士」の受験資格の取得・免許登録には、次の要件を満たすことが必要です。

下表「分野別の科目の対応表」の①～⑩またはA～Fの分野ごとに必要単位数以上の単位をそれぞれ取得しなければなりません。

卒業後すぐに試験を受験することは可能ですが、卒業後から試験合格を経て免許登録までには実務経験が必要です。必要な実務経験年数は、下記科目的総取得単位数により、以下のようになります。

一級建築士

下記科目の総取得単位数が40単位以上（①～⑨で30単位以上）であれば、実務経験4年で免許登録できます。

下記科目の総取得単位数が50単位以上（①～⑨で30単位以上）であれば、実務経験3年で免許登録できます。

下記科目の総取得単位数が60単位以上（①～⑨で30単位以上）であれば、実務経験2年で免許登録できます。

二級建築士・木造建築士

下記科目の総取得単位数が20単位以上（A～Eで20単位以上）であれば、実務経験2年で免許登録できます。

下記科目の総取得単位数が30単位以上（A～Eで20単位以上）であれば、実務経験1年で免許登録できます。

下記科目の総取得単位数が40単位以上（A～Eで20単位以上）であれば、実務経験0年で免許登録できます。

分野別		指定科目	単位数	
二級・木造建築士 (必要単位数)	一級建築士 (必要単位数)			
A 建築設計製図 (3単位以上)	① 建築設計製図 (7単位以上)	建築設計製図 I	2	
		建築設計製図 II	2	
		建築設計製図 III	1	
		建築総合設計製図	1	
		CAD 製図（建築）	1	
B 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 (2単位以上)	② 建築計画 (7単位以上)	建築文化史	2	
		建築計画学	2	
		木造住宅論（FSR）	2	
		建築史・保存活用論（FSR）	2	
		環境建築学	2	
	③ 建築環境工学 (2単位以上)	都市計画	2	
		建築環境工学	2	
C 構造力学、 建築一般構造 又は建築材料 (3単位以上)	⑤ 構造力学 (4単位以上)	④ 建築設備 (2単位以上)	環境空調工学	2
		構造力学 I	2	
		構造力学 II	2	
		土質力学	2	
	⑥ 建築一般構造 (3単位以上)	⑦ 建築材料 (2単位以上)	建築構造学	2
		木造建築構法	2	
		コンクリート工学	2	
D 建築生産 (1単位以上)	⑧ 建築生産 (2単位以上)	建築材料	2	
E 建築法規 (1単位以上)	⑨ 建築法規 (1単位以上)	建築施工	2	
F その他 (適宜)	⑩ その他 (適宜)	建築法規	2	
		図学	2	
		技術者論理	2	
		農村整備計画学	2	
		エコロジカルデザイン演習	1	
		測量学 I	2	
		測量学実習 I	2	
		農業施設環境学実験	1	
		造園緑地学（AGB）	2	
		農と緑のまちづくり論（AGB）	2	
		測量学 II	2	
		農業施設学	2	
		地域環境 GIS 演習	1	
		フィールドワーク論	2	
		生物地域環境計画学	2	

指定科目で、〈AGB〉は生命農学科の開講科目、〈FSR〉は森林資源科学科の開講科目を示します。

必要単位数によっては、他学科開講科目の単位取得が必要となる場合もあるので、履修計画には注意してください。

指定科目は、変更される場合もあります。変更があった場合には、直ちにお伝えします。